

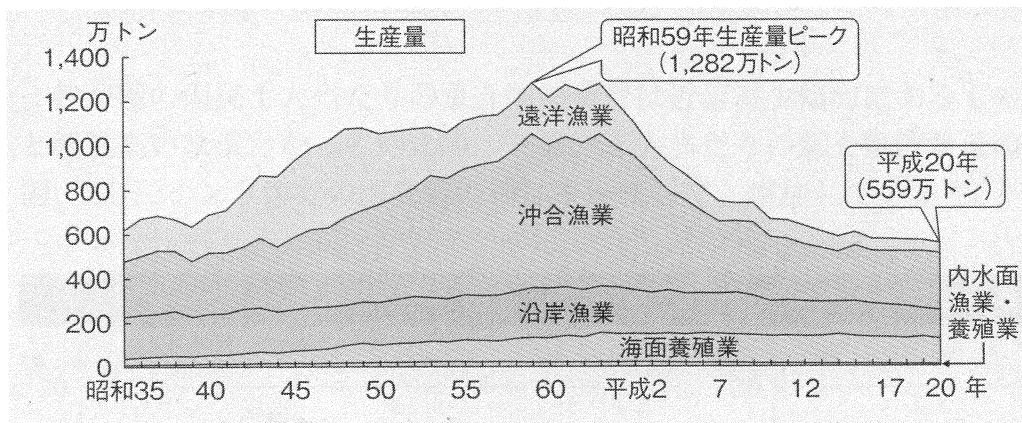
平成23年度技術士第二次試験問題〔水産部門〕

選択科目【14-1】漁業及び増養殖

1時30分～5時

I 次の2問題（I-1，I-2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

I-1 下図は我が国の約50年間の遠洋漁業，沖合漁業，沿岸漁業，海面養殖業，内水面漁業・養殖業の生産量の推移を示したものである。この図から我が国の漁業，増養殖が将来，取り組むべき課題を抽出し，その対応策について述べよ。（問題番号を明記し，答案用紙3枚以内にまとめよ。）



（平成22年版・水産白書より引用）

I-2 次の5設問のうち3設問を選んで解答せよ。（設問ごとに答案用紙を替えて解答設問番号を明記し，それぞれ1枚以内にまとめよ。）

I-2-1 我が国周辺における大型クラゲの出現について，これまでの状況と取組内容を述べよ。

I-2-2 漁業資源の管理手法について，漁業の入口と出口での2つの規制がある。それぞれの具体的な規制内容を説明せよ。

I-2-3 日本は，世界で初めてウナギの完全養殖に成功した。その内容と種苗の量産化に向けた技術的な課題について述べよ。

I-2-4 最近，藻場や干潟などの保全を目的として，漁業者や地域住民などによる環境や生態系の保全活動が実施されるようになっている。その保全活動の内容と技術的な課題について述べよ。

I-2-5 マグロ類は広い大洋を回遊する高度回遊性魚類である。このためマグロ漁業の関係国は、マグロ類の種類及び回遊海域ごとに地域漁業管理機関（RFMO：Regional Fisheries Management Organization）を設立し、資源の状況に応じた資源管理を実施している。我が国は世界に5つある全てのマグロ類RFMOに加盟している。この5つあるRFMOの名称（日本名、英名）と、その機関の概要等について知るところを述べよ。